

■ 書道作品展・親子歴史講座・教職員歴史講座 ■

作品・受講者を募集します

作品募集

■ 第6回「西郷隆盛をしのぶ維新ふるさと館書道展」

西郷隆盛は書をこよなく愛した人であることはよく知られています。西郷の命日9月24日を挟む23日間、応募された全作品を館内に展示します。

【部 門】小・中学校の部(半紙のみ)、高校・一般の部(半紙・条幅)
※出品点数1人1点(ただし、半紙・条幅両方出品可)

【作品受付】平成25年9月2日(月)～同年9月4日(水)9時～17時まで

【作品展示】平成25年9月23日(月)～同年10月15日(火)

【その他】※要項など資料はホームページからダウンロード可
※鹿児島市外在住者へは、資料請求があれば送付



受講者募集

■ 親子歴史講座

小学校5・6年生、中学生を対象にした親子歴史講座。「銅像に見る鹿児島の歴史」というテーマでふるさとの歴史を学びます。

【日 時】平成25年7月28日(日)9時30分～12時30分

【定 員】50人(超えたら抽選)

【料 金】小・中学生150円、保護者300円

【申込み】電話かハガキ、FAXで住所・電話・参加者全員の氏名・学校名・学年を7月20日まで(必着)
〒892-0846鹿児島市加治屋町23-1 TEL/099-239-7700 FAX/099-239-7800 へ



■ 教職員歴史講座

鹿児島県内の教職員を対象にした歴史講座。「これだけは知っておきたい鹿児島の歴史」というテーマで鹿児島の歴史の基礎知識を学びます。

【日 時】平成25年8月8日(木)・9日(金)9時～16時50分

【定 員】50人

【料 金】無料

【申込み】電話かハガキ、FAXで学校名・学校の電話番号・職名・氏名・自宅住所・自宅電話・携帯電話を7月20日まで(必着)

〒892-0846鹿児島市加治屋町23-1 TEL/099-239-7700 FAX/099-239-7800 へ



温故地新 ふるさを温め、地元を新たに。

■ 西郷どん、大久保さん、篤姫、頑張る

今年5月に発足した「薩摩観光維新隊」が来館。鹿児島市の多彩な魅力のPRのため、東奔西走の同キャラバン隊、来館者の記念写真にも気軽に応じていました。維新ふるさと館のPRもよろしく。



●修学旅行生を玄関でお出迎え

■ ホームページのリニューアルも進めます

当館の情報発信の最大のツールは、ホームページ。情報紙に続いて、このリニューアルも進めています。市民、観光客、観光関係者などの皆さんが活用しやすいものに改善していきたいと思います。ご意見などお寄せください。

■ 館内の賑わいに誇り～お便りに感謝します

市内に住む歴史講座を受講された方から嬉しいお便りをいただきました。

「館内が賑わっている情景を目にすると市民として何となく郷土の誇りみたいな、この上ない喜びを感じます」

皆さんのご支援をいただきながら、さらに喜ばれる館運営に努めてまいります。

明治維新を分かりやすく、楽しく

ISHIN 維新

維新ふるさと館情報紙
【No.8】

■ 平成25年(2013年)夏季号
■ 発行：鹿児島市 維新ふるさと館
〒892-0846 鹿児島市加治屋町23番1号
TEL.099-239-7700/FAX.099-239-7800
http://www.ishinfurusatokan.info

維新を
歩く

大久保利通(甲東)が 見つめるもの

口ひげにフロックコートという洋装で、颯爽と立つ大久保利通銅像は、まさに日本の近代化を先導した宰相の風格である。銅像は中村晋也氏の作で、没後100周年記念事業の一つとして昭和54年、甲突川高見橋袂に建てられた。

平成30年、明治維新150周年を迎えるが、果たして大久保利通はどんな思いでここに立っているのだろうか。

大久保はナポリ通り沿いの高麗町に生まれ、幼くして加治屋町に転居した。それ故、甲突川の東の河畔で生まれ育ったことから、「甲東」と号し、その銅像の起ち居も、自分を育んでくれた地を眺めながら、幼いころの懐かしい想いに浸っているかのように見える。

少し視線を上げると、その先には雄大な桜島の姿が眼に映る。もしかすると、質実剛健と高貴な精神を誇りとする薩摩武士の姿と、「冷静・沈着にして決断・実行の人」といわれた自らの生き方を重ね、改めて郷土鹿児島に想いを馳せているのかもしれない。

そうした感傷に浸りながらそっと銅像を見上げると、「いやいや、私は桜島よりも、もっと先の先を見据えているのだよ」と語りかけてくるような気がする。近代国家建設という偉業達成の夢は、明治11年5月14日、暗殺という悲惨な形で潰えた。

偉人に共通する特性の一つが、「志半ばにして散る悲劇性」にあるとすれば、西郷も大久保も、まさにその典型であり、あまりにもはかなく切ない限りである。

(文/福田賢治 維新ふるさと館特別顧問)



●大久保利通銅像
〔鹿児島市西千石町1(甲突川左岸緑地内)〕 (写真/竹之内祐司さん)

あふれる花々 維新ふるさと館玄関前

「ハナフルかごしま」の皆さんが花苗を寄贈

4月中旬から、当館玄関前広場が花いっぱいです。来館される皆さんも「きれいね」の声をかけてくださいます。

この花苗は、鹿児島市にある花苗鉢物生産者協議会「ハナフルかごしま」（会長 森重道治）の皆さんが寄贈。8人の会員が自社の農園で栽培したペチュニア、インパティエンス、サルビア、ガザニアなど10種類の花苗用ポット約150個を持ち寄り、手際よく13個のプランターに植えたものです。

その後、花苗は当館職員が管理。会員の皆さんの指導のもと水やりと摘花を確実に実践。順調に育ち、色鮮やかな花を咲かせています。

「観光客の皆さんに喜ばれているとのこと。うれしい限りです」と同協議会会長の森重さん。第2弾は夏から秋にかけて楽しんでいただける草花を提供してくださる予定です。

来館者を快適な環境で迎えることは、館として先ずしなければならないこと。「ハナフルかごしま」の皆さんのご支援に感謝します。



●「地産地銷」で地域に貢献したいと「ハナフルかごしま」の会員の皆さん

維新ふるさと館 駐車場のご案内

観光客の皆さんからお尋ねがあるのが駐車場の場所。駐車場は西郷隆盛・従道誕生地の前の「専用駐車場」と維新ふるさと館の対岸にある「観光交流センター駐車場」の2ヶ所です。どちらも当館を観覧中は無料。

～近畿地区から専用新幹線利用～ 修学旅行生、初来館



●横断幕で修学旅行生を歓迎（鹿児島中央駅）

連休明けの5月7日、近畿地区からの中学校修学旅行の一行が鹿児島入り、観光関係者などが出迎えました。

一行は、明石市の野々池中（236人）と高砂市の鹿島中（155人）の2校で、新大阪発の修学旅行専用新幹線を利用したもの。歓迎を受けた後、早速、鹿児島市内へ。両校とも当館へ来館し、約1時間の館内見学となりました。

24年度に、修学旅行で当館に近畿地区から来館した学校は、小中高校合わせて30校で2657人。今年度は4月～6月ですすでに小中高校28校、2746人が来館しています。

鹿児島市の歴史観光のゲートウェイとして位置づけられる当館は、修学旅行生に鹿児島の歴史が一目で分かるように、特に明治維新が楽しく、分かりやすく紹介できるように、さらにいろいろな工夫が必要です。また、歴史観光を担う他の施設との連携も重要になってきています。



職場体験

中学生頑張る！

5月、鹿児島市内の甲南中、清水中、吉田南中、東谷山中、西陵中、紫原中の6校の生徒、合計13人が3日間、当館で職場体験。

お客様のお出迎え、展示の案内、事務作業、清掃作業など様々な仕事に、当館スタッフの一員となって取り組みました。緊張した面持ちながら最終日には修学旅行で来館した小学生に展示説明も頑張りました。

「どんな小さなことでもお客様のために一生懸命するということ、見えなところでも支えているひとがいるということ、働くということとはとても魅力的なことで、将来、その魅力を伝える立場になりたい」（甲南中 岩崎由紀子さんの感想文より）



●展示説明も上手でした

維新ふるさと館 出前講座 社員研修に活用



●研修は6日間、延べ約70人が参加

当館では、企業向け出前講座を行っています。

6月、鹿児島サンロイヤルホテルでは、ホテル周辺の歴史をテーマに研修を行いました。宿泊されるお客様に案内できるようにと、熱心に受講していました。

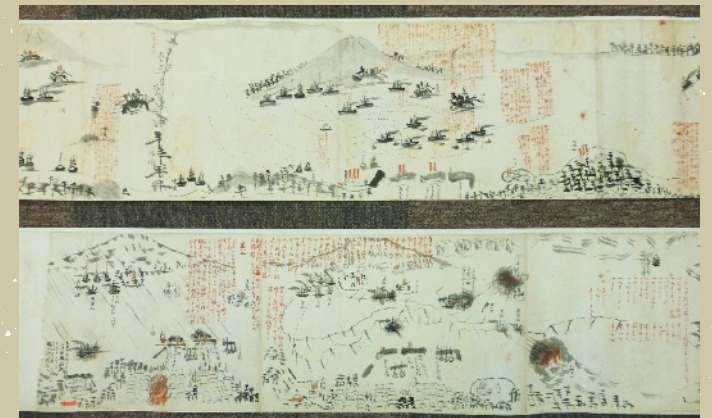
●「知らないことだらけだったので勉強になった。鹿児島の歴史をもっと勉強したい」と語るロビーサービス課 岡村久美子さん



「鹿児島の歴史、先人の教えをきちんと知りたい!」など、社員研修に取り入れませんか。ご要望に合わせて対応します。お気軽にお問い合わせください。

館の宝物

薩英戦争絵巻



当館の絵巻物の大きさ
1巻: 27×488 (cm)
2巻: 27×299 (cm)

※薩摩藩の砲台設置箇所
祇園之洲、新波戸、弁天波戸、南波戸、大門口、天保山、桜島（横山、洗出、鳥島）、沖小島

※イギリスの艦隊（7隻）
旗艦ユーリアス、パール、アーガス、パーシュース、レースホース、コケット、ハボック

薩英戦争は、イギリスなど欧米諸国の圧倒的な軍事力に大きく目を開かされ、攘夷運動の限界を悟る契機となった事件といえる。文久2年（1862）薩摩藩が起した生麦事件解決のため、犯人の処分と賠償金を要求するイギリスは、翌3年7隻の軍艦を鹿児島湾に派遣した。7月2日交渉が失敗に終わると、天保山に築かれた砲台からの攻撃を合図に、各砲台が砲撃を開始した。それに対してイギリスが反撃を始める、アームストロング砲が威力を発揮し、集成館や上町一帯の500戸以上が焼失するなど大きな被害を受けた。一方、イギリスも旗艦ユーリアス号に砲弾が命中して、艦長以下13人が戦死し、50余人の負傷者を出して、翌3日、イギリス艦隊は鹿児島湾から去っていった。

薩英戦争の一部始終を描いた絵巻物は、元治元年（1863）に今和泉家の家臣で絵師の脇田森左衛門が見聞したことを墨書し、イギリスの新聞記事を朱書したもので、同様の絵巻物が県立図書館と尚古集成館にも所蔵されている。